

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	川西町立千手小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	1	2	1	0	8	14
児童数	30	34	38	35	43	31	0	211	

研究の概要

1. 研究主題

子どもが「わかる・できる」喜びを感じる授業
～ 少人数指導における指導方法の工夫と評価のあり方 ～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年・算数（1学年はT.T指導）
児童の理解の状況に差が生じやすい教科であるため
- ・1、3、4学年・国語（1学年はT.T指導）
児童数が多く、読みの力や言語の力をつけるうえで、個に応じた指導が必要なため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 子どもが「わかる・できる」喜びを感じる授業 ～ 少人数指導における指導方法と評価のあり方 ～</p> <p>研究仮説 児童の自己評価を生かし、個に応じた指導を改善していけば、児童の学習意欲の高まりを促し、学力を向上させることができる。</p> <p>研究内容・研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 (1) 少人数指導のコース設定のあり方を探る。 (2) 少人数指導の単元計画への効果的な位置付けを探る。 (3) 個に応じた指導のための教材開発と教材の提示の仕方を探る。 (4) 指導と評価の一体化を図り、自己評価能力を高めるための評価のあり方を探る。 ・方法
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> (1) 児童の実態把握 (2) 校内研究体制を組織し、日々に授業や授業研究を中心にした計画、実践、評価の推進 (3) 学習カード等、評価方法の開発 (4) 学習意欲、学力を高めるための教材開発 (5) 地域との連携による研究推進
--	--

平成 16 年度	<p style="text-align: center;">テーマ 子どもが<わかる・できる>喜びを感じる授業 ～ 少人数指導における指導方法と評価のあり方 ～</p> <p>研究仮説 児童の自己評価を生かし、個に応じた指導を改善していけば、児童の学習意欲の高まりを促し、学力を向上させることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 少人数指導におけるコース設定の一層の明確化を図る。 (2) 個に応じた指導のための教材の開発をさらに進める。 (3) 指導と評価の一体化を図り、自己評価能力を高めるための評価のあり方を探る。 <p>・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成 15 年度の学力との比較検討から、児童の学力実態把握と少人数指導のあり方を検証する。 (2) 校内研究体制を組織し、日々に授業や授業研究を中心にした計画、実践、評価の推進 (3) 学習カードの作成と適切な活用と評価方法の開発 (4) 学習意欲、学力を高めるための教材開発 (5) 地域と連携した研究推進のための情報発信及び収集
----------------	---

(3) 研究推進体制

<p>全体研修</p> <p style="text-align: center;"> </p> <p>研究推進委員会</p> <p style="text-align: center;">/ \</p>	<p>研修日 毎月 1、2、4 週 月曜日</p> <p>研究推進委員会 (4 名)</p> <p>少人数指導担当者 2 名は、下学年部、 上学年部に 1 名ずつ所属し、授業を担当する。</p> <p>担任と少人数指導担当者の打ち合わせ</p>
--	--

平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導を実施した各学年の各単元において実施したワークテストのほとんどが、期待得点よりも上回ることができた。 ・ 単元の指導計画において、コース別編成指導を設定する際、有効性のある一定のスタイルを確立することができた。また、コース別編成指導の前後には、評価方法を工夫し、児童の学力及び学習意欲を評価しながら、学習を進めることが有効であった。
----	--

- ・ 習熟度別編成指導は、その単元の学習内容における習熟度ととらえ、単元の終末時に設定することが、児童の学習意欲を高め、学習内容の習熟を図るうえで有効である。

2. 今後の課題

- ・ 発展学習や補充学習等のとらえを一層明確にして、取り組むとともに教材の開発を進めていく。
- ・ コース別学習において、一層個に応じたコース設定を検討していく。
- ・ 担当者間の情報交換をより密にしたり、教材研究を進めたりするための校内体制の確立や時間の調整をしていく。
- ・ 自己評価能力を高めるための工夫をし、指導と評価の一体化を図る。
- ・ 地域の小・中学校との連携のあり方を探り、情報の発信や収集に努める。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ N R T 学力テストによる学力分析（5月）
- ・ C R T 学力テストによる学力分析（1月）
- ・ 学力テストの分析実施後、それをふまえた評価の仕方や指導方法を研修する。
- ・ 学習意欲向上事業の取組による、町共通「計算テスト」（7月・1月）の実施と誤答傾向等の分析と対策への取組
- ・ 学習意欲向上事業の取組による、町共通「漢字テスト」（7月・12月）の実施と音読テストの実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 保護者に対して、実施の様子等について便りの発行（4回 予定を含む）及びリーフレットの配付
- ・ 第1年次中間発表会の実施
日時：平成16年2月17日(火) 会場：千手小学校
対象：魚沼・十日町地域全小・中学校及び県下F S 校 保護者 地域住民
目的：少人数指導の取組と成果を公表し、外部からの評価を受ける。

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無